東京スカイツリー開業1周年　墨田区　特集

共同歩調で観光・商業需要開拓

塚田　進　氏

鈴木　道明氏

阿部　貴明氏

東京スカイツリー（東京都墨田区）が5月22日、開業1周年を迎える。世界一の高さを誇る自立式電波塔のインパクトは強く、初年度は目標を上回る554万人が入場した。開業はまた、墨田区の観光に光を当てた。東武タワースカイツリーの鈴木道明社長、墨田区観光協会の阿部貴明理事長、墨田区伝統工芸保存会の塚田進会長にお集まりいただき、現状と今後の展望を話し合ってもらった。司会は編集長の内井高弘。
（4月上旬、東武タワースカイツリーの本社で）

特別鼎談　地域の発展に貢献

目標上回る初年度入場者
観光を意識した街に変化
実演、販売の機会が増加

鈴木氏　阿部氏　塚田氏

出席者（50音順）

阿部　貴明氏　墨田区観光協会理事長
鈴木　道明氏　東武タワースカイツリー社長
塚田　進　氏　墨田区伝統工芸保存会会長
司会・編集長内井高弘

――開業1年、成果は。

鈴木　初年度の入場者数は当初約400万人を見込んでいた。その後上方修正し、最終的に545万人という目標値を設定したが、結果的には約554万人と目標を9万人程度上回った。また、スカイツリータウン全体では同様に2750万人を見込んでいたが、3月末で4476万人と非常に多くのお客さまにご来場いただいた。大変ありがたい。634㍍という高さに加え、下町の独特な雰囲気、懐かしさをこの地域は持っており、一度足を運んでみようと思われたお客さまが多かったのではないかと思われる。

スカイツリーの魅力の一つが眺望の良さだ。春夏秋冬、昼・夜間、いろんなシュチュエーションの中で眺望を楽しむことができる。地上350㍍の天望デッキのエレベーターを降りた瞬間にワーッという感嘆の声が挙がる。東京という都市を今まで見たことのない角度でご覧になって感動される。450㍍の天望回廊では100㍍の違いを改めて実感されるようだ。

――修学旅行生も多いと思うが。

鈴木　12年度は約12万5千人の学生さんが訪れた。今年度はその倍の修学旅行生が訪れると見ている。また、初年度の状況を見ると、個人と団体では個人の割合が高く、その多くは関東地方の方だ。団体の場合は新幹線と高速道路、いわゆる交通アクセスのいい場所からお見えになっている。静岡、名古屋、長野といったところか。また、団体は予約制をとっている。路上で団体の乗り降りをするというケースが頻発すると、地域住民の方々にご迷惑をおかけすることになるからだ。外国人については2年目からの動きがあると見ている。

阿部　これまで15回ほど上ったが、飽きることはない。季節によっていろんな姿を見せてくれる。隅田川の花火大会の時にも上ったのだが、塚田さんがお住まいになっている向島の景色がとても奇麗だったのが印象に残っている。また、墨田区は河川が多いのだが、上から見るとこれだけあるのかと改めてビックリした。観光面でこれを生かさない手はない。

塚田　上ったのは3回ほどだが、初めての時、下町はこんなに川が多いのかと実感した。また、不思議なものでまず自分の家を探してしまう（笑い）。自分はこんなところに住んでいるんだと改めて分かる。スカイツリーならでの感動がある。

――墨田区はどんな街ですか。

阿部　モノづくりの街で、特に江戸木目込人形や江戸切子などの工芸品は定評がある。観光の街では全くなかった（笑い）。スカイツリーの建設が始まるころから環境が大きく変わり、観光客受け入れの準備を進めてきたというのが実情だ。観光協会は「本物が生きる街」をスローガンに掲げ、これまであったもので観光素材になりそうなコンテンツを掘り起こし、磨き上げ、つなぎ合わせることに努めてきた。この地域はあえて悪く言うと取り残された、良く言うとリザーブドエリアだ。町工場や伝統工芸への関心は徐々に高まり、それに対応できるような小さなツアーを組めるようになってきた。観光を意識した街づくりの機運が盛り上がっている。スカイツリーができなければ絶対なかったことだ。

――塚田さんは江戸木目込人形を作っていますが、スカイツリーができて何か変わりましたか。

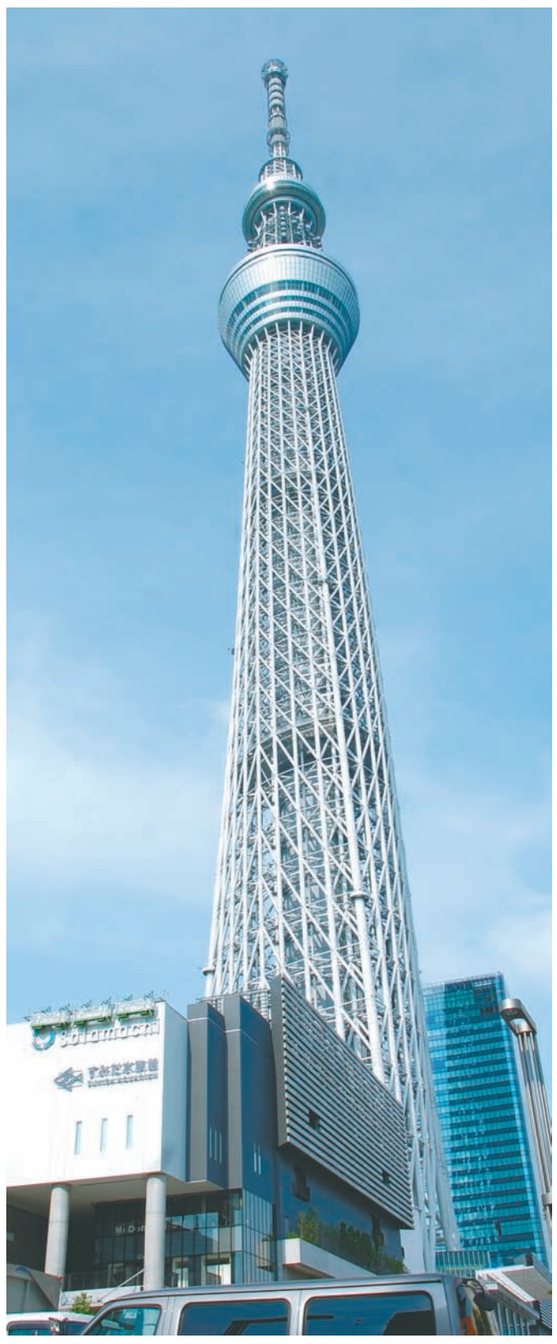
塚田　墨田区の知名度が上がってきた。スカイツリーのお膝元というと、皆さん納得される（笑い）。これまで伝統工芸保存会を説明するのに、区の位置から話さなければいけなかった。「東京ソラマチ」に墨田区のブースができ、そこに伝統芸能保存会のスペース作っていただいた。実演、販売をやらせていただいている。来場者に作業、作品を見られることによって、職人の意識も変わってきた。これは会にとっても大きなメリットだと思う。体験工房もあり、気軽に訪れてほしい。

――地元への貢献度については。

鈴木　墨田区という地名、ブランドを社会に対して広くアピールをしていくお手伝いはできたかと思う。

――スカイツリータウン内で完結してしまい、周辺の商店街に人が流れてこないという声も聞きます。

鈴木　まず、タウンを含めてスカイツリーを見るという目的があり、周辺にまでなかなか目が向かないのが実情ではないか。地域あってのスカイツリーであり、地域全体の活性化が大事なことは当社も認識している。このため、「東京スカイツリー周辺夜桜スタンプラリー」や「東武鉄道沿線桜前線スタンプラリー」など、周辺を歩いてもらう企画を打ち出している。スタンプ帳は2千～3千冊置いていたが、予想以上に好評で、追加したぐらいだ。今後も街を歩いていただけるよう積極的に仕掛けていく。

阿部　スカイツリーの地域貢献度は非常に高く、訪れる人は確実に増えている。ない方がよかったと言う人は少ない。効果が出たところとそうでないところの温度差があるのは事実だ。地元民だからこそあえて言うが、「新しい名所ができるのだから、また大勢の人が来るのだから、がんばってみよう、努力してみよう」というところはほぼうまくいっている。伝統工芸保存会はまさにこのパターンだろう。一方、何も努力をしなかったところ、ただ待っていたところは残念ながらうまくいっていない。がんばっているところを見て、「じゃあ俺もがんばってみるか」という方が増えればいいと思うし、私は確実に

※6面に続く